

2025 年 9 月 8 日

通貨ニュース

タイ:アヌティン新首相が就任も、早期の総選挙実施へ

タイでは 8 月 29 日に解任が決定したペートンタン前首相に代わって、タイ誇り党に所属するアヌティン前副首相兼内相が新首相に就任することが決まった。これにより、タイ貢献党を中心とする連立政権は崩壊したが、アヌティン首相は早期の総選挙実施を約束している。

ペートンタン前首相のカンボジアとの国境紛争を巡る対応を受けて、同氏は首相解任となっており、注目は 9 月 5 日に実施された首相選任選挙に移っていた。当時、連立与党の最大勢力であったタイ貢献党に有力候補がいなかったこと、与党第 2 党であったタイ誇り党が 6 月の時点で与党から離脱していたこともあり、タイ貢献党以外の人物が首相に選出される可能性は十分に考えられる状況となっていた。かかる中、今回首相に選任されたアヌティン氏はペートンタン氏の失脚を受けて次期政権の主導権を握る構えを示していたが、最大の決め手となったのは、野党でありながら下院の最大勢力であるタイ国民党を取り込むことに成功したことであろう。もっとも、タイ誇り党とタイ国民党は思想や政策面で大きく異なっており、両党が寄り添って政策運営をすることは困難である。こうした状況下、タイ貢献党を政治の中心から引きずり落とすという点で両党の思惑が合致したと推測される。

タイ国民党は革新的な政党と言われ、王室不敬罪の改正や国軍改革を推進する立場をとっている。一方で、タイ誇り党はやや保守的な政党に分類され、過去親軍派政権に加わっていたこともある。下院において親軍派政党の存在感は近年薄れつつあるも、依然政治における影響力は相応に有している。今回、親軍派政党と比較的距離が近いタイ誇り党のアヌティン氏が首相に就任するという結末は彼らにとっても決して都合の悪い話ではなかったと思われ、それ故に今回の選任選挙は比較的スムーズに進んだと考えられる。

しかし、タイ国民党は政権奪取を目指しており、今回アヌティン氏支持するにあたり、4 か月以内の議会解散を約束させたことが報じられている。そのため、今後 4 か月間、政策自体が異なるタイ誇り党の運営に協力的な姿勢をとるとも考えにくく、今回の首相交代によって、総選挙実施まで再度タイの政治が停滞する懸念が強まったのは事実だろう。

以上を踏まえ、今回の首相選出は暫定的な対応であると整理しておきたい。アヌティン首相は「政権運営に多くの制約はあるかもしれないが、たゆまぬ努力で職務にまい進する」とコメントしているが、景気回復やカンボジアとの紛争解決など課題は多く、4 か月間で取り組める職務には限りが出てくるだろう。結局、タイ政治の行方は次の総選挙に委ねられたと見るべきだが、タクシン派と反タクシン派、改革派政党と保守派の親軍政党といった政党間の対立は根強く、こうした点も長らく政治が安定しない要因になっている。このため、総選挙の結果だけでなく、選挙後の内閣組閣の動向を含めてタイ政治の今後を展望する必要

国際為替部
シニアマーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

があるだろう。政局の流動化がタイ経済の足を引っ張る構図は近年変わっておらず、今回の首相交代や総選挙を経て、今回こそタイ政治が変わることを期待したい。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。